

- \* イエスは38年間病であった人を救われたが、律法で安息日にしてはならないことを命じ、癒されたので、ユダヤ人たちのイエスに対する反感は強くなった。「イエスは彼らに答えられた。『わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。』このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。」(ヨハネ5:17~18)
- \* 聖書の神を「父なる神」と呼ぶ。しかし、神は創造者であり、人間ではないので性別はない。男でも女でもない。神を父と呼ぶのは比喻、譬えである。聖書には母としての神の表現もあるが、イスラエルの社会の父の役割になぞらえて、家族のリーダーとして上に立つ権威と責任があるという意味で「父」である。
- \* イエス・キリストを「神の子(息子)」「御子」と呼ぶ。また、神の「ひとり子」と表現することがあり、「他に類がない、特別な」という意味である。他方、イエスを信じた者は「神の子ども」とされる。親の愛情を受けて家族を構成する子という意味で原語では、「息子」とは別のことばが用いられていて、「子ども」と訳されている。
- \* 父と子とは一つである。「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分からは何事も行うことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行うのです。』(ヨハネ5:19) 父なる神と子なるイエスは全く同じ性質を持っておられるので、父がなさることとイエスがなさることは全く同じである。イエスはただ父の真似をしたり、命令によって奴隷のように動くのではない。父と子は同等、同格、同質の神である。父のみこころを離れて子が勝手に話したり、行動することはない。もしも、父と子の考えが違ったら、私たちはどちらを信じてよいかわからない。そのようなことはない。
- \* 「それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお示しになるからです。」(ヨハネ5:20) 「また、天からこう告げる声が聞こえた。『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。』(マタイ3:17) 父は子を愛しているし、子も父を愛している。永遠の愛の信頼関係にある。それ故、父は子にすべてを知らせておられるのである。
- \* 「また、これよりもさらに大きなわざを子に示されます。それは、あなたがたが驚き怪しむためです。父が死人を生かし、いのちをお与えになるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちを与えます。」(ヨハネ5:20~21) イエスは十字架にかかって私たちの罪をあがなってくださった。そして、再び来られて、全ての人をさばかれる。イエスのことばを聞いて信じる者は、すでに死からいのちに移っている。